

令和5年度

第16回新川和江賞

～未来をひらく詩のコンクール～

表 彰 式

日 時:令和6年2月11日(日)午後2時
場 所:石島建設プラネットホール・ゆうき図書館 多目的ホール
主 催:結城市・結城市教育委員会
(公財)結城市文化・スポーツ振興事業団

ごあいさつ

結城市は、歴史と文化のまちです。江戸時代の俳人・与謝蕪村は、当地の俳人・砂岡雁宕のもとに身を寄せ、交遊し、結城を詠んだ俳句などを多数残しました。また結城朝光公以来、結城家で代々保護育成された紬産業は、平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。そうした結城の子どもたちの才能を発掘し、伸ばしていきたいという、名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある詩人・新川和江氏の思いが、結城市民情報センター・ゆうき図書館が開館5周年を迎えた平成20年度に、「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」という形で具現化されました。

このコンクールは、今年で第16回を迎えます。これまでに30,767点のご応募をいただき、毎年素晴らしい作品が数多く生まれてまいりました。詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に貢献してまいりました。また、新たな才能を発掘することを目的とするという想いは、詩を愛する関係各位のご尽力により脈々と受け継がれております。

本年度も、2,109点という多くの作品をご応募いただきました。今回も感性豊かな秀作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、ご応募いただいた皆様が、詩への興味を持ち続けていただくことを期待しております。

本市は、3月15日に市制施行70周年を迎えます。子どもたちの個性と無限の可能性を开花させる教育を推進するとともに、地域資源を活用した魅力と活力あるまちづくりを進めてまいります。結城の地でのびのびと育った子どもたちが、大人になっても、結城で過ごした日々を誇りに思う。そうあってほしいと願っております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願い、ごあいさつといたします。

令和6年2月11日

結城市長 小林 栄

ごあいさつ

結城市の小学校・中学校・高等学校の児童、生徒の皆様。「第16回 新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」に、たくさんの素晴らしい詩を応募してくださいましてありがとうございました。

応募作品は、2,109篇もありました。それを新川和江先生を中心とする詩の集い「センダンの木の集い」の詩人関和代さんと山中和江さんが丁寧に読んで下さいまして、495篇を選んで下さいました。身近な出来事を取り上げ、生き生きとして魅力的な作品ばかりで読みごたえがあったと聞いております。本当にその通りだと思います。私は、その495作品を繰り返し読みまして、その中から新川和江賞、優秀賞、優良賞を選びました。受賞者の皆様。おめでとうございます。

応募して下さいましたすべての作品は、皆さんが生活の中で直接経験し、心に響いた出来事を皆さんの言葉で書かれたものばかりで、それが読者の心に訴えます。

家族や友達、ペットや小動物などとのこころのふれ合い、仕事、学校生活、スポーツ、その他、自分の身の回りのさまざまなできごとに繊細な眼差しをそそいでいる作品、恋愛、生きる問題にも深く思いを巡らしている作品もたくさんありました。それらの作品はみな、皆さんの発見、驚きから始まっています。これからも詩を書き続けて下さい。図書館で、詩をたくさん読んでください。

世界中では、今、戦争などで、たくさん子ども達が泣いています。そのようなこころの痛む日々、新川和江先生の次の詩はいかがでしょう。

コップの ばらが ひらきました
ちょうど今
世界のどこかで
子どもが ふふうふ と笑ったからです
「どこかで」第1連

皆様、どうかこれからも自分が経験したものをのびのびと表現してください。広く、広く世界を広げて行ってください。

最後になりましたが、児童、生徒を、詩の創作に熱心にお導き下さった先生方、保護者の皆様、この素晴らしい未来に向かう豊かな事業を推進されている結城市長はじめ関係者の皆様、誠に有り難うございました。

令和6年2月11日

選考委員長 たけし かずゆき
武子 和幸

次 第

日時 令和6年2月11日(日)
午後2時
場所 石島建設プラネットホール・
ゆうき図書館
3F多目的ホール

●表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表彰
- 5 第16回受賞作品朗読
- 6 選考委員長による講評
- 7 閉式のことば

優秀賞
新川和江賞

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

天国に行ったひいばあちゃん 江川南小学校 6年 なかやま まき 中山 真希

☆優 秀 賞

ほねだけときょうりゅう 結城小学校 1年 すすき ゆうじ 鈴木 悠司

おふとんとわたし 江川北小学校 2年 おかだ あや 岡田 彩

かわいい妹 結城小学校 3年 うさみ こうき 宇佐見 昊己

ながしそうめん 結城西小学校 3年 すすき いおり 鈴木 吉織

おばあちゃんと私のうめシロップ 山川小学校 4年 いのせ みあ 猪野瀬 心彩

ぼくの庭 結城西小学校 4年 かつまさ しゅうすけ 勝政 秀介

おばあちゃんの幸せ 城西小学校 4年 さかもと ゆま 坂本 悠真

真っ赤な顔のスイカ 絹川小学校 5年 ゲイン キウ ヱイ

一まいのかべ 上山川小学校 5年 やまなか きしん 山中 喜心

ママのポケット 江川北小学校 6年 おいぬま ゆうは 生沼 友羽

朝ごはん 結城南中学校 1年 あおやま れん 青山 漣

人類の敵 結城中学校 2年 たに ゆうき 谷 侑樹

吹奏楽は「画用紙」 結城東中学校 2年 さかいり のあ 坂入 望愛

思いにふけ、更ける夜 結城第二高等学校 2年 おおいし なつゆ 大石 夏露

☆優良賞

かきごおり

結城小学校 1年 田中^{たなか} 奏音^{ことね}

キック キック シュール

結城小学校 3年 高島^{たかしま} 愛生^{めい}

へんしんたまねぎ

江川北小学校 1年 本橋^{もとはし} 美怜^{みれい}

しゃぼん玉

絹川小学校 3年 横瀬^{よこせ} はるな

なつのおと

結城西小学校 1年 荒木^{あらか} 健吾^{けんご}

ママのお友だち

江川南小学校 3年 鈴木^{すずき} 俊平^{しゅんぺい}

しょうぎ

結城西小学校 1年 名塚^{なつか} 悠人^{ゆうと}

ぼくのきず

結城西小学校 3年 船戸川^{ふなとがわ} 重朋^{しげとも}

ようかいずかん

江川北小学校 2年 池田^{いけだ} 光^{れい}

自分のくらしと電車の運転手のくらし

絹川小学校 4年 関^{せき} 朔久^{さくく}

にじがでた

山川小学校 2年 猪野瀬^{いのせ} 王佑^{おうすけ}

ヒミツ

江川北小学校 4年 小尾^{おび} 翔太^{しょうた}

せいくらべ

上山川小学校 2年 大滝^{おおたき} 旦陽^{あさひ}

きぬ川の夕やけ

上山川小学校 4年 鈴木^{すずき} 彩楓^{あやか}

インフルエンザ

城西小学校 2年 稲沼^{いなぬま} 陽彩^{ひいろ}

この世界の空気

結城小学校 5年 山岸^{やまぎし} 楓^{かえて}

☆優良賞

絵の具

絹川小学校 5年 せきね 葵
関根 あおい

日の狭間

結城中学校 2年 つかだ 来留美
塚田 くるみ

自然の香水

江川南小学校 5年 すずき りお
鈴木 理央

現実と理想にはさまれながら…

結城東中学校 2年 みやた まお
宮田 麻央

睡蓮鉢

山川小学校 5年 つかごし あいる
塚越 愛琉

平和への笑顔

結城東中学校 2年 みやた ゆい
宮田 結生

お腹の中

上山川小学校 5年 いしかわ ひな
石川 陽愛

蛭

結城中学校 3年 かつまさ あかり
勝政

ししとううらない

城西小学校 5年 くどう しんいちろう
工藤 慎一郎

わたしの家

結城南中学校 3年 あいざわ かなえ
会沢 香苗

ミサイルなんかいらぬ

城南小学校 6年 あかいわ こうたろう
赤岩 康太郎

雷雨

結城南中学校 3年 あへ せいこ
阿部 聖子

線香花火

山川小学校 6年 いのせ ひさき
猪野瀬 妃咲

青春色の一ページ

結城第二高等学校 1年 うえさと るり
上里 瑠璃

ばあちゃんが教えてくれたこと

城西小学校 6年 やまなか ちひろ
山中 千博

ことばはいつ 詩となるのであろう
猿に噛みくだかれた木の実は
むろの中で年月を経て酒となるように
夜ふけに草をしめらせたり露が
あけがた葉末で玉となるように

新川和子 2

新川和江賞（最優秀賞）

天国に行ったひいばあちゃん

江川南小学校 六年 中山 真希

私の家には、ひいばあちゃんがいた
私が病気の時に看病や
話しあいてになってくれた。
やさしいひいばあちゃんだった

今年のお正月頃、体調が悪くなり
ねたきりの生活になった。
自分でごはんが食べられないので
ママが食事介助を教えてください
私が食事介助をした

「おいしい。おいしい。」
といいながら笑顔で食べてくれた
周りにだれもいなくなると

ひいばあちゃんが、私に
「なにかおいしいもの持ってこい」
といい、ヨーグルトを食べさせると
よろこんでたべてくれた。

少しでもひいばあちゃん
介護ができてともうれし
なくなる前の満面の笑顔

私は忘れないよ

もうこの笑顔見られないのさみしいよ
長生きできてよかったね

本当に本当にありがとう
いつまでもいつまでも
私たちを天国で見守っていてね

短評 新川和江賞 「天国に行ったひいばあちゃん」

ねたきりになったへひいばあちゃんへの食事介助が立派にできましたね。きめこまかく書かれていてすばらしい詩になりました。その様子や真希さんの表情までが目に見えるようです。家族が協力し合い、へひいばあちゃんへが、みんなに愛されながら幸せな最期を迎えたことが、亡くなるときの〈満面の笑顔〉にあらわれていて一番の感動です。この詩は、高齢者を看取った一族のお話ですが、その詩の背後には、互いに助け合い、働けなくなった人々や体の不自由な人々も大切に援助して生きてきた人類の長い物語が影絵のように見えてくるようです。

優秀賞

ほねだけごきょうしゅう

結城小学校 一年 鈴木 悠司

ほくぶつかんのきょうしゅう
ほねなのに ほくよりおおきに
ほねだから すべにこわれそう

もしじしんがおまへ

ほねがぼらぼらになったら

ほくが

せんぶのきょうりゅうのほねを

パズルみたいにくみあわせて

ティラノサウルス

ステゴサウルス

トリケラトプス

ブラキオサウルス

みんなまざった

あたりしいきょうしゅうをいへるんだ

しゅくしてかっしゅくきょうしゅうを

しゅくたいな

短評 優秀賞「ほねだけごきょうしゅう」

ほねだけごきょうしゅうをみて、さうだんだな。ほねだけになって、
も、しゅくしてかっしゅくきょうしゅうを。お、お、お、お、お、お、お、お、
らたい入んだと、はいして、お、お、お、お、お、お、お、お、
こい、あたりしいものをいへるんだとおもって、さうだんだな。それ、
たぐきのカタカナのかたち、ほね、ほね、ほね、ほね、ほね、ほね、ほね、
それをくみあわせて、しゅくきょうしゅうが、しゅくきょうしゅう。

優秀賞

おぶんとわたし

江川北小学校 二年 岡田 彩

ずっとつかっていたおぶんと
ねる時はいつもいっしょ
あとおきたらほっぺをすりすり
まいにちぶかぶかおひさまのにおい

わたしが生まれる時

おとうさんとおかあさんがえらんぐでくれたおぶんと
はじめておうちにきたときも
おたん生日もクリスマスのおさも
しゃしんにうつっているわたしは
いつもおぶんとの上でわらっていた

でもとうとうおわかれする時がきた
おぶんがくたくたにつかれちゃって
さよならしなきゃいけなくなった

しゅうせきじょうにやさしくねせた
なんどもなんどもやさしくなでた
なんにちもなんにちもさよならのことばを
かんがえたのに
なみだがじゃまして「ありがとう」「しか
言えなかった

ふとしたしゅんかん思い出す
わたしの日になにも言えなかったくやこや
わらわらとしたあのかんじよへ
おぶんとの上でのしあわせなきおへ

短評 優秀賞「おぶんとわたし」

生まれたときからつかっていたおぶんとは、あやさんじいのようなおともだちなのですね。おわかれはつらいですね。じぶんとわかれるよくなかなしみでしようね。かなしすぎてありがとうだけしか言えなかったけど、ゆづきをもっておわかれできましたね。きおくのなかには、しあわせにすごしたまいにちが、いきいきとひらいていますよ。

優秀賞

ながしそつめん

結城西小学校 三年 鈴木 吉織

ながれていくのは そつめん
 はじでとまるのも そつめん
 とじまでいくんだ そつめん

ながれて ながれて どじいくの
 そつめん そつめん とまらぬい
 じいじいす すすすす
 はじがくるまじとまらぬい

はじがきて とまっただよ

しめのなかでも しるん
 うちのなかでも しるん
 しるん おいしい しるん たのしい
 ながしそつめん いらねえ

短評 優秀賞「ながしそつめん」

「ながしそつめん」は、季節の移り変わりを、自然の音や色、そして人間の感情を通して、詩の力で表現している。作者は、身近な自然の音を聴き、それを言葉に起こしている。その中で、自然の音や色、そして人間の感情を、詩の力で表現している。作者は、身近な自然の音を聴き、それを言葉に起こしている。その中で、自然の音や色、そして人間の感情を、詩の力で表現している。作者は、身近な自然の音を聴き、それを言葉に起こしている。

優秀賞

おばあちゃんとお私のうめシロップ

山川小学校 四年 猪野瀬 心彩

親せきのお母さんから青うめをたくさんもらいました。

やわってみると、すべすべふわふわ

もものようなあまずっぱい いじいにおい

おばあちゃんといっしょに初めて作る

うめシロップ

「うまくできるかなあ。」と私が聞くと、

おばあちゃんは大きくうなずいてくれました。

「おばあちゃんは氷ざとうで私はうめね。」

氷ざとうをビンに入れると

カラカラカランとおどろだす

次はそーっと うめのおぶとんかぶせるよ

じじいじじいじじいじきつめたら

エメラルドの宝石箱みたいになったよ

氷ざとうがとけていくと

ビンの中は光りかがやくオーロラみたい

まぜるたびに待ち遠しくなるうめシロップ

私はやっぱりシユワシユワうめジュース

おばあちゃんはおぶるんおぶるんなうめゼリー

お父さんはきりりとひえたうめサワー

みんなが「おいしい」「てほめてくれたから

私もおばあちゃんに「ありがとう」「と伝えたよ。

「おばあちゃん、また来年もいっしょに」

うめシロップ作ろうね。」

短評 優秀賞「おばあちゃんとお私のうめシロップ」

私たちはこのように二つの世代から次の世代へ文化を伝えてきたのですね。おばあちゃんから孫の心彩さんへ伝わった梅シロップの作り方を、次は心彩さんが子へ伝える番ですね。ビンの中の梅やとけていく氷ざとうが宝石箱の宝石だったりオーロラの輝く空のようだったりとても美しく、心彩さんは豊かな想像力の持ち主です。

優秀賞

ほへの庭

結城西小学校 四年 勝政 秀介

ほへの庭にはたくわんの命がやじつにいる
たじえは
さよつを運んでくるアリ
しっぽの切れてる青いトカゲ
あれれ
石の下からだんごむしもでてきた
うわっ
ドロバチがおいかけてくるぞー！
植物だって生き物だ
おばあちゃんが植えたもみじはまだ緑色
ねこじゃらしは先だんがケムシのようだ
あゝよもぎもちだべたくなってきた
草ぼーぼーだ
早くぬかなきゃな
ほへの庭にはたくわんの命がやじつにいる

短評 「優秀賞」ほへの庭

秀介さんは、注意深く自然を観察しています。しっぽの切れているトカゲやドロバチにおられるだんごむしなどなど。それだけではありません。もっとすばらしいところは、それらの生き物に、〈命〉という一番大切なものをみつめていることです。難しい言葉で言えば、そこから命の尊さという思想が生まれてくるのですね。

優秀賞

おばあちゃんの幸せ

城西小学校 四年 坂本 悠真

これは近所のおばあちゃんの話。

おばあちゃんは百才、一人ぐらう。

家族とは毎日電話をするし、

週に三回ヘルパーさんが来ている。

おばあちゃんはゆっくりだけど

コミ出しも一人でするし

少し耳は遠いけれど

毎朝すてきな服を着て庭の手入れをする。

でも、暑い日エアコンをつけず部屋について

体調をくずしてしまった。

元気になったおばあちゃんは

「これから暑くなるからしっかりとしまきゃ

とはりきっていた。

なのおばあちゃんはしせつへ行った。

家族がまだ暑い日が続くし心配だからと。

きつとしせつの方が、歩きやすいろうか。

ほしい時、いい所に手すのりだつてある。

手をかりたい時、手伝ってくれる人もいる。

おばあちゃんは安全で安心してぐらうしている。

そつ思つけれど、

「まだまだこれから。」

とはりきつていた言葉が

頭をぐるぐる、心はもやもやしている。

ガランとしたおばあちゃんの家

おばあちゃんを心配した家族の決だん。

それをつけいれたおばあちゃん。

おばあちゃんに会いに行こうと思う。

短評 優秀賞「おばあちゃんの幸せ」

百歳で一人ぐらうでも元気いっばいな近所のおばあちゃん。家族が心配してしせつにはいつてもらった。おばあちゃんにとつてそれがよいことなのか、悠真さんの気持ちはゆれているのですね。元気なおばあちゃんの気持ちもわかるし、家族の気持ちもよくわかる。悠真さんは、相手の立場に立つてものごとを考えることの出来る繊細な心を持っていきます。これからもこの心だけは忘れないでね。

優秀賞

真っ赤な顔のスイカ

絹川小学校 五年 グエン キュウ ヴィ

暑い中遊びへ行き

真っ赤な顔で帰ると 目の前に

丸い体で緑と黒のしまもようの

顔を見せてくれない

かわいい子ちゃんがいる

ぼうでわって中を見ると

目が数えきれないぐらいたくさんある

それに私と一緒に真っ赤な顔

はすかしがりやなのかな

食べると、私はすずしい でも、

あついのか こわいのかわからないが

たくさん たくさん

赤色のあせを出している

でも私は食べ続ける

「ああ〜おいしかった」

真っ赤な顔の子はもういない

でもきつといつかまた会えるよね

楽しみに待ってるね

短評 優秀賞「真っ赤な顔のスイカ」

猛暑。グエンさんの真っ赤な顔。緑と黒のかわいい子ちゃんのスイカ。それをわるところから真っ赤な顔。数えきれない黒い目。食べるとグエンさんはすずしいが、スイカは赤い汗を流している。まるで食べる人と食べられるものとの戦いのようですね。暑さの中、みんなエネルギーにあふれていて元気いっぱい。

優秀賞

「まいのかべ」

上山川小学校 五年 山中 喜心

コンコンコン
コンコンコン

かべのむこうにはお母さんがいる
今年の夏ほくのお母さんは

コロナウィルスに感せんしてしまった
同じ家の中にいるのに会えない
同じ家の中にいるのに見えない

あたり前の毎日が止まった
すぐそこにいるのに遠く感じた
このかべがとうめいだったらな

こんなにさみしくならなかったのにな
部屋のかべをたたく合図を始めてみた

お母さんはとても喜んでくれた
お母さんが部屋を出られる日まで

ぼくは毎日、毎日かべをたたいて合図した
でもやっぱりかべのそんざいはでかい
会えなくて見えなくてぼくはつらかった
お母さんのそんざいはとても大きいな

短評 「優秀賞」 「まいのかべ」

ほんとうにつらい毎日でしたね。かべのむこうにお母さんがいるのに会えないなんて。でもかべをたたいて通信するなんてすごいアイデア。それだけでも気持ちは伝わりますね。それにかべのおかげでお母さんの大きなそんざいに気づいたのだから、よしとしなければ。いまではかべもよい思い出。

優秀賞

ママのポケット

江川北小学校 六年 生沼 友羽

冬の寒い朝のこと
学校に行くときまで
ママがお見送りをしてくれるの
近所のおそば屋さんまでの
ほんの少しだけ
毎日のルーティン
私のすきな時間のひとつ
真っ赤になった弟の手を
そっとつかんでコートのポケットの中に
ママのあったかい手に包まれて
ふわふわもこもこ気持ちいいねって
うれしそうな弟の笑顔に
私もうれしくなっちゃって
急いで手ぶくろはずして
ママのポケットの中に手を入れてみた
あれ？何か入ってる
ガムの包み紙だあって
またちがう日には
クシャクシャになったレシートが
登校班のみんなまで

クスクス笑いながら

冬の寒い朝に笑顔の花が咲いたよ

「はい。行ってらっしゃい。」

ちよっとさみしくなった手と手つないで

「行ってきます。」

明日は何が入っているかな？

ママのポケット楽しいなあ

短評 優秀賞「ママのポケット」

素敵な登校風景ですね。何回読んでもニコニコしてしまいます。ママと弟、登校班のお友達と一緒に歩く姿や何気ないしぐさが、ドラマを見ているように楽しいですね。ポケットの中のママの温もり。ママの愛情のあたたかさ。一生忘れることはないでしょう。

優秀賞

朝ごはん

結城南中学校 一年 青山 漣

眠い目をこすりながら
やっとの思いで体を起こした
ふらふらしながら着替えて
ダイニングへ行った

なんだかとてもいいにおい

「ああ、いつもの光景だ」

食卓に並んだ朝ごはん

朝ごはんを見たら 不思議と目が覚めた
準備万端「いただきます!」

今日の朝ごはんは

焼き魚や豆ふと野菜のみそ汁 ご飯

魚は海で産まれて育って

野菜とお米は農家の人につくられて

市場 スーパーを経て

お母さんが買い物をして料理して

今 僕の目の前にある

様々な所から

たくさんの人たちの手をかりて

僕たちはごはんが食べられる

一口食べると幸せな気分になれるごはん

しかし 食べられる喜びを感じないまま
多くの人が亡くなっている国もある

普段は思いもしないけれど

毎日おいしいごはんを食べられることは

なんて素晴らしいことなのだ

今あらためて考えてみる

感謝の気持ちを忘れずに

「うちそうまででした!」

短評 優秀賞「朝ごはん」

思わずゴックンと喉が鳴りそうな朝食ですね。丁寧な描写と詩の全体的な構成がとても優れています。おかげで朝食の風景や、その色彩や香りや味まで読者に伝わってきます。そればかりではありません。漣さんは、そのような幸せな時間を持ってない人々に思いをさせています。共感力、想像力がとても豊かなのですね。それは最も大切なものだと思います。

優秀賞

人類の敵

結城中学校 二年 谷 侑樹

民家の家に、何かが入ってきた。

それはキッチンの方へ行き、食べ物の残りカスを食べていた。

それから数か月がたち、家主は、ある日を境に、家の中からカサカサと聞こえるようになった。

日がたつにつれてその音は増えていき、家主はおかしいと思い、その音がする方へと行った。

冷蔵庫の下をのぞくと、そこにはあの黒い生きものがそろそろとうごめいていました。

家主は、すぐに殺虫剤をもってきて、冷蔵庫の下にいるものを全て殺しました。

家主はほっとし、その時は夜だったので、ベッドに横になりました。

しかし、ねている時に、家主は聞きました。

人ぐらいの大きさのあるとても大きなものが、ベッドの下でカサカサと動く音を。

短評 「優秀賞」人類の敵

サスペンス映画の一場面を見ているような不気味な詩ですね。次に何が起ころのだろうという不安感がサスペンスの意味ですが、まさにその通り。読む人をはらはらさせながらひきつけて離さない。そんな書き方。そして最後に、人類の敵という大きな謎を残すなんて、お見事。

優秀賞

吹奏楽は「画用紙」

結城東中学校 二年 坂入 望愛

吹奏楽は大きな画用紙だと私は思う。それぞれの楽器の出す色で画用紙に色をのせる。

例えばトランペットのきらきらした黄色

ホルンの優しい緑色

チューバのかっこいい紫色

フルートの鮮やかな水色

アルトサックスのかわいらしいピンク色

沢山の楽器が集まり、まざり合う事できれいな絵が完成する。

しかし部員全員の気持ちがあわさらないときれいな作品を作る事はできない。

部員の気持ちがあわさらないと「画用紙」は小さく色もきれいではない。

だが気持ちがあわされば「画用紙」は大きく色も鮮やかにする事ができる。

だから私は、残りの一年半、仲間と一緒にきれいな作品を作っていきたい…

短評 優秀賞 「吹奏楽は「画用紙」」

ウォルト・ディズニーの映画を見ているような楽しい詩ですね。吹奏楽の演奏が始まると、指揮棒という絵筆の先から画用紙に流れるように描かれる美しい色彩。それぞれの楽器の音が描く黄色や緑色、紫色、水色、ピンク。見事ですね。楽器の音に色彩があるなんて、すばらしい感覚。音の調和は、絵画の色彩の調和と一緒。それは皆の心の調和。すばらしい。

優秀賞

思いにふけ、更ける夜

結城第二高等学校 二年 大石 夏露

完璧、未熟、不揃い、優秀、普通。

世の中の「何か」がつくりだした出ても出てなくても打たれる杭たちが、いつの間にか入っていた小さな型のなかで、わからないこともわからないままにお互いを噛む。

ただの感情に身を任せて、それでよかったはずなのに。

見失ったものは、果たして見えていたのか。気付かなかったことは、気付こうとしていたのか。

妙に頭が冴え、ただそんなことを考えてしまっただけ。

明日も早いからもう寝ようか。

迎えようとする何の変哲もない明日は約束はされていないけれど。

短評 「優秀賞」思いにふけ、更ける夜

私たちは、何かに夢中になっているときは忘れていますが、それが途切れたとき、ふと自分を振り返ってとても不安になることがありますね。社会の生きづらさとか、どうなるか分からない未来や、無限の宇宙の中で自分は何者なのかなど考えたり。生きることにつきもののそんな不安をどうしたらよいのでしょうか。詩を書いたりすることは、そのような不安から始まるのかもかもしれません。

優良賞

かきうがら

結城小学校 一年 田中 奏音

かきうがら
 みんなで たべた
 がらがらまわすと
 うびうび しゅりしゅり きらきららの
 こおりが おさらば おちた
 しゅっぶのせたら
 あおい うみみたい
 こおりのくにおくいるみたい
 こおりのくにおひめさまになって
 あおいうみで およいでるみたい
 うみを おくちにいれたら
 しゅっぶはくはく
 あまい あまい
 こおりのくにお おじょうひめ
 うみのおかわら くだわいな

優良賞

へんしんたまねぎ

江川北小学校 一年 本橋 美怜

トントントン
 たまねぎほそくきったらね。
 やさいのためになっちゃった。
 トントントン
 まんまるおつきさまみたいにきったらね。
 オニオンリングになっちゃった。
 トントントン
 たまねぎしかくにきったらね。
 おいしいスープになっちゃった。
 トントントントン トントントン
 いっぱいいっぱいきったらね。
 なみだがいっぱいできてきたの。
 それでもいっぱいきったらね。
 おいしいハンバーグになっちゃった。
 たまねぎってへんしんするんだね。
 おりょうりつもおもしろい。
 ねえ
 きょうはごはんをおりょうりつしゅりしゅりか。

優良賞

なつのおと

結城西小学校 一年 荒木 健吾

ミーンミーンとせみのこえでめがさめる
 あついなつ
 シャリシャリシャリかきしるの
 あまくておいし
 まっかなスイカシャクシャクシャク
 たいようシリシリ
 ザブンザブーンとなみのおと
 かぜがぶく
 チリンチリーンとぶつりんがゆねる
 ハッピーをきとおまつりだ
 ピーヒャラッピーヒャラドンドンドン
 まっくらなそらがにぎやか
 ヒュードンドンパチパチとおおきなはなび
 ねむくなるじゆ
 たんぼでかえるがケロケロだいがっしょう
 なつはワクワクえがおがたくさん
 いろんなとじゆでだのしいおとがきこえる

優良賞

しょうご

結城西小学校 一年 名塚 悠人

いちばんすきなこまはひしゃ
 まえとうころころいじ
 みぎとひだりともいじ
 ときがとろりとすべるとき
 いちばんにげやす
 だからひしゃがいちばんすき
 にばんめにかくがすき
 かくはななめころころいじ
 おうてがしやす
 ぎんであいてをせめるのもすき
 あいての三ますにはいると
 ぎんはきんになる
 でもぼくはぎんがすき
 つよいあいてとたたかかって
 まけてもまたたたかかって
 だんだんつよくなる
 だからぼくはしょうきがすきだ

優良賞

おじがいますか

江川北小学校 二年 池田 光

ばけねこにへんしん ねこむすめ
ものしり めだまおやじ
へびつかい じゃこつばあ
川におとすと あずきあらい
わるいことがおこる いぬがみ
おおきくなる みかけにゆうどう
けらけらわらうとおちる人めんじゆ
雪でおおらす 雪おんな
「わるい子はいねえか」 なまはげ
毛むくじゃらでびょう気にする 毛うげげん
ものはたいせつに からかさおぼけ
いきがくさい ぬっぺらぼう
上からおちてくる 毛いっぱい
おどかすのがすき もくもくれん
かおにかぶさりいきをとめる ふとんかぶせ
たましいのあん内人 センポクカンポク
くらにいるよ くらぼっこ
ないていしになる 子なきじい
いそがしくしている いそがし

いえにようかいがいる
一人でいると音がする
一人でいるのがこわい
ゆうきをだして音のするほうへたんけんしに行こう
そしてようかいと、友だちになろう
そしたらこわくなくなるもんね

優良賞

じじがでた

山川小学校 二年 猪野瀬 王佑

雨がやんだらじじがでたよ
つくばさんよりも大きいにじだよ
かいだんみたいにのぼれるかな
のぼってみたらどこにいけるかな
うんでん中のおとうさんにも見てほしいな
大きいにじがおいかけてきたよ
ぼくとにじのおいかけっこみたい
どこまでもどこまでもおいかけてくる
でも見るたび見るたびきえていく
「バイバイにじさん、またきてね。」

優良賞

せうせい

上山川小学校 二年 大滝 日陽

ぼくの心ではこを見てみたよ
白とちや色の二本のえんぴつ
くらべてみよう せいくらべ
お気に入りのえんぴつみじかいな

おうちのにわで見つけたよ
はたらきありとだんご虫
くらべてみよう せいくらべ
だんご虫の方が大きいな
でも丸くなれば同じだな

草のかけから出てきたよ
プニプニかえると赤ちゃんとかけ
くらべてみよう せいくらべ
しっかげの方が大きいな
しっかげがきれたら同じかな

ぼくのかぞくでせいくらべ
パパはママより大きいな
ぼくもパパみたいになりたいな

ぼくとおとうとでせいくらべ
おとうとのせはぼくのあごぐら
い ぼくの方が大きいな
だつてぼくはお兄ちゃん
おとうとは小さくてかわいいな

いろいろなくらべて せいくらべ
大きい小さいあるけれど
みんなちがってみんないい

優良賞

インフルエンザ

城西小学校 二年 稲沼 陽彩

夏休みインフルエンザになった。
お姉ちゃんとはべつのへやになった。
いつもケンカばかりして

ママにいつもおこられて。
でもねつが出たら
お姉ちゃんがやさしくなった。

かわいそうだから。
辛そうだからって。

インフルエンザはいやだけど
お姉ちゃんとはなれるのは

もっといやだな。
ケンカしてもお姉ちゃんいないと
さみしいんだもん。

ママがお姉ちゃんにも
わたしにも言った。

「二人ともおたがい大好きなんだね。」って。
もちろんわたしはこうこたえたよ。
「うん。大好きだよ。」って。

優良賞

キック キック シュール

結城小学校 三年 高島 愛生

パシャパチャ パチャ

りょう足が 水の中でわらってる

ザブン ザブーン

わたしはプールの水に ぽっかりうかんだ

まるで水ぞく館のクラゲのようだ

今 とても楽しいよー

ぽっかりを楽しんだら

パシャ パシャーン

手足を思いっきり使う

面かぶりのクローラー練習スタート

キック キック シュール シュール

ピタッ ピタッ 水の音も楽しい

もっともっと キック キック

心も体も強く強くなりたいなあ

プールの水の音も泳ぎも楽しもう

キック キック がんばるぞー

優良賞

しゃぼん玉

絹川小学校 三年 横瀬 はるな

しゃぼん玉 きえたらおしまい

さびしくなるのはなぜなのかな

しゃぼん玉 きえないほうが

なんだかいいけれど

でもきえちゃうからさびしくなる

しゃぼん玉 風のとってゆれていく

しゃぼん玉 いっぱいいなくなっちゃうのは、

なぜなのかなんだかさびしくなるな

きえないほうがうれしいな

空にしゃぼん玉がとんでいく

しゃぼん玉 なかまは、たくさんいる

しゃぼん玉 だいすき

優良賞

ママのお友だち

江川南小学校 三年 鈴木 俊平

ママの大すきなお友だち
名前はまりちゃん
まりちゃんは、りょうりが上手
夏になると手作りのコロッケがとどく
まりちゃんが作るコロッケには
しゅんのやさいがたっぷり入っていて
できたて、あつあつのコロッケだ
サクサクホクホクあーおいしい
ほっぺがおちるってこゆうことなんだね
家族みんなの大こづつ
夏になるのがたのしみなんだ
まりちゃんはいつもニコニコしてて
やさしくておもしろくて
ママがピンチのときは
いつでもどこでもきてくれて
ぼくたちかぞくをたすけてくれる
スーパードヒーローなんだ
ぼくにあうと
いつもギュッとだきしめてくれる
大きくてふわふわなからだのまりちゃん
まりちゃんのエプロンは
いつもおいしいにおいがして
ぼくの心もほっかほか
まりちゃんだーいすき
いつもありがとう

優良賞

ぼくのきず

結城西小学校 三年 船戸川 重朋

ぼくはカッターでうでを切った
ちがたくさん出てきた
肉が見えていた
見た人は気持ち悪いと言った
ぼくは何だか悲しくなった
気持ち悪くなんてない
ぼくのきずはかわいいんだ
不思議なことに肉は見えなくなった
きず口はだんだん小さくなった
まだいたい時もある
だんだんなおっているきず
おわかれは何だかさみしいな

優良賞

自分のくらしと電車の運転手のくらし

絹川小学校 四年 関 朔久

午前四時私はぐっすりねている

運転手は始発の駅にっこうとして

午前六時私はお母さんにおこされる

運転手は電車を運転しはじめている

午前八時私は学校で読書している

運転手は終点の駅に着いた所

午前十時私は学校でじゆ業をうけている

運転手は二回目の運転をしている

午後一時私は学校で給食を食べている

運転手はきゆうけいしている

午後四時私は学校からかえってあそんでいる

時間が同じでもやってる事が全くちがう

私は電車のうんてんしゅがゆめやるとなっ

たらとてもいそがしいな

優良賞

ユウミン

江川北小学校 四年 小尾 翔太

ぼくの家には時々おじが出る

ぼくがうそをつくとあらわれる

ぼくが約束やぶるとあらわれる

ぼくがずるするとあらわれる

ぼくが人のせいになるとあらわれる

でも、ぼくはこのおじが大好きだ

ぼくのためにあらわれることを知っている

ぼくの事が好きなんだと知っている

あらわれた後はいつも「きゅっ」としてくれる、

そのうちの中は温かい

ぼくが、このおじを好きな事はしばらくは

ユウミンにうそをついて

きぬ川の夕やけ

上山川小学校 四年 鈴木 彩楓

きぬ川の はしの上で

夕陽を見ていると

川が夕陽の光で

きれいに赤くそまっていた

まるで梅の木みたいに

まっ赤にそまっていた

わたしはお母さんと

きれいだねと話した

風がふいて

川の水がゆれた

梅の木が風にふかれたみたいで

もっときれいにみえた

この世界の空気

結城小学校 五年 山岸 楓

空気は見えないのに、感じるの

空気をすうときの感じはしないのに

空気をはくときだけ感じる

この水色のきもち

黒い宇宙

真っ暗な世界

地球の空気がなくなると

宇宙のように暗くなるのかな

でも、宇宙に空気がそんざいしたら

今のように、きれいな水色に変色するのかな

宇宙に少ない空気があるとしたら

たくさん空気に変わっていったら

暗く、黒い世界は一つもなくなる

小さな光から

大きな光に

見えづらかったきぼうの道が、よく見えるように

この空気をすうとすえますように

優良賞

絵の具

絹川小学校 五年 関根 葵

急に白いところに出されて
おどろいていたら、水をたくさんかけられて
ぐちゃぐちゃにまぜられて
そしたら次は
へんなふわふわにつけられて
さっきとはちがう
線がかかっている白いところにのせられた
そこには木とか家とかがあった
けれども、全部色が無い
家も木もどうぶつも
せんぶせんぶ色が無い
ふしぎだなと思っていたら
水をまたつけられたり、のびされたりした
本当にここはどいなんだろう。

優良賞

自然の香水

江川南小学校 五年 鈴木 理央

うちのお母さんは
香水はつけません。
でも、
自然の香水を
つけているんです。
自然の香水は
みんながまとえる香水なんです。
人にもよりますが
きついにおいもありません。
使い方はカントタンです。
外に出かければ
香水が自動でつくん
ですよ。
香りは無げんにありますよ。
花の香り、土の香り、
お日さまの香り……
さあ、あなたは
どの香りを楽しめますか？
おねだん0円です！
外に行けば、こう入完了！
おもしろテレビショッピングの
時間でした。
ピッ
私は、すぐに
外へかけました。

優良賞

睡蓮鉢

山川小学校 五年 塚越 愛琉

和を感じる睡蓮鉢

うき草と睡蓮鉢の緑は美しい

睡蓮鉢の中は小さな自然

メダカが泳いでるのを見るとホッとす

陽がさすと睡蓮のきれいな花がさく

陽がしずむと花が閉じる

あさがおと少し似てる

花の周りを泳ぐメダカはまるで宝石

体は小さいけれどたくさん種類でキレイ

睡蓮鉢の中はメダカの楽園

メダカはどう思っているかな

水草をかきわけてスイスイスライダー

流木の周りをクルクルメリーゴーラウンド

ほくだったら遊園地かな

そんな想像をしながら心がほっこりしました。

優良賞

お腹の中

上山川小学校 五年 石川 陽愛

ママのお腹の中に赤ちゃんがいる

お腹の中には私の弟がいる

ママのお腹に手をあてると

「ぽこっぽこ、ぐんぐん。」

「びるびる。」

「びくびく。」

色々な動きが手から伝わる

時々すごい動きをしている

「ウニョウニョ」

「グニョングニョン」

お腹の中はせまいのかな

会えるまでもう少し

あと少しだけお腹の中だね

みんなで会えるのを待っているよ。

優良賞

しつとつひらなつ

城西小学校 五年 工藤 慎一朗

じいちゃんが育てたししとうを持ってきた
「いためて食べるとおいしいぞ」
お母さんがフライパンでいためる
つやつやしていておいしそう
いただきます、一口に入れる
うわっ、からい
だけどみんなはパクパク食べている
からいのはほくだけ？
「当たり前だね」みんなが笑って言う
何かいい事ありそう

次の日の野球の試合
エラーをした
三振もした
全然いいところがなかった
ししとうはあたりじゃなくてはすれだった
またじいちゃんがししとうを持ってきてくれた
またぼくに、からいのがあった
「今度こそ大当たりだ」
そう思ったけど、今回の試合も思うような結果が出なかった
またハズしだったみたいだ
今度じいちゃんがししとうを持ってきてくれたら
今度こそ「本当の当たりの」をひけるように
毎日練習をがんばる

優良賞

ミサイルなんかいらない

城南小学校 六年 赤岩 康太郎

ぼくが朝起きると、ある国が
ミサイルを打っている。
それでもぼくは、
いつも通り学校に行く。
学校に行ったら勉強して友達と遊ぶ。
だけど、ミサイルを打たれている国、
打っている国の子ども達は、
学校に行けない。
友達とも会えない。
世界中の子どもが、みんなほくと
同じだったら、未来にミサイル
なんてなくなるかな、
ミサイルなんかいらない。
なんで、知らない人どうして、
争うんだろう。
大人のかってで、子ども達が、
つらい思いをする、
子どもどうしなら、
きつと仲良しなのに。
時には、大人も子どもを見習えば、
ミサイルなんていらなと思う。
ぼくは、ミサイルなんていらない。
子ども達のために、
世界中の大人達が
仲良くなればいいのに。
ミサイルなんてなくなればいいのに。

優良賞

線香花火

山川小学校 六年 猪野瀬 妃咲

暗やみでぽつんと光る線香花火
パチパチとなる静かな音に
私の心もゆっくりはねる
ゆらゆらゆらぐオレンジ色の
火の玉つつむ花のようせい

しずくのような火の玉がゆれる
ゆらり ゆらりと流れにまかせて
ゆられ ゆられて火花がおどる
キラキラかがやく宝石みたいに
キラキラ光る一番星みたいに

「…夏US。」

ほつりとたれてさびしいような
夏の終わりが近づくような

優良賞

ばあちゃんが教えてくれたこと

城西小学校 六年 山中 千博

折り紙、お手玉、けん玉
自転車の乗り方、
おはよう、こんにちは、ありがとう
あいさつは大きな声で
みんな笑顔になるからね
それから、それから
人の体のつくり
看護師だったばあちゃんは
傷の手当はピカイチ
あと…

野菜の育て方
ばあちゃんは家庭菜園が大好きだった
土をさわるとパワーをもらえるんだって
じゃがいも、いちご、いんげん
いっしょに育てたね
ばあちゃんが遠くにいった日
僕は大きな声で泣いた
もっともっと色々教わりたかった
もっともっと色々相談したかった
でも僕はわかるんだ
ばあちゃんに相談したら
きつこう言うだろう
僕にはわかる
ばあちゃんの言うことが
ばあちゃんは僕の心にいるからね

優良賞

日の狭間

結城中学校 二年 塚田 来留美

夜は暗い。

風の燦々と輝く太陽は眠り、辺りはたちまち闇に包まれる。その代わりというように煌々と光る月だけが空に昇っている。

今日のことを振り返って、明日への希望を胸に目を閉じる。

じりじりと重苦しい冷たい何かが迫ってくる気がする。そう思っているうちに眠りにつく。遠く鳴り響くタイマーの音。カーテンから差し込む光。

朝がやってきた。希望に満ちた朝が。

あんなに鮮明だったものは一瞬で夢に変わる。不確かな夢が記憶から遠のいていく。きっと夢は私にとって意味のあるものだったに違いない。

こんなにも新鮮で心が弾む朝が好きだ。何にでもなれる新しい空気。

私は深呼吸して今日へと踏み出した。

優良賞

現実と理想にはとまれながら…

結城東中学校 二年 宮田 麻央

三階建てでエレベーター、広いバルコニー
そこから見える美しい海

イルカと泳いでいる私

考えれば考えるだけあふれる私の頭の妄想

詩をかくことでみえてくる

新しい世界

現実と理想にサンドイッチされて歩く

そんなことを思いながら

私たちの毎日は生きている

反対に、毎日戦争で冷戦できがで苦しむ

そんな人々がいる

私たちの当たり前の日々を

そのような人達の苦勞、努力、思いを

背負って歩んでいきたい

いつか未来に

全人類の平和と幸せが訪れることを

信じて、祈って

優良賞

平和への笑顔

結城東中学校 二年 宮田 結生

月がきれいに光っていた
それが月が笑っているようだった
それを見て戦争孤児が目を輝かせた
そして笑顔になった
その笑顔を見て兵士の人は誓った
こんな子供達の笑顔を絶対に守ると
そして笑顔になった
そんな笑顔を見てテレビのカメラマンは
ほこりに思い兵士を尊敬して思った
こんな人達を世界中に見せたいと
そして笑顔になった
そんな人達を見て僕はねがった
こんな人達が平和に生きていける
世界になってほしいと
そして笑顔になった

優良賞

蛍

結城中学校 三年 勝政 あかり

暗やみの中に浮かぶ一点の光
それは暗やみをほんやりと照らす
光は一つ二つ、三つ四つと増えて
私の周りを明るく照らす
もう暗やみじゃない
私は手前に浮かんでいる一点の光を
両手でつつみこむ
そのとたんその光は色を失くす
なんで
私は次々と光を手にとる
でもその光は私の手におさまると力尽きる
なんでなんで
気が付くと再び暗やみにつつまこまれてた
なんでなんでなんで
私の瞳にはただ暗い黒が広がっている
再び暗やみにつつまこまれている
でも、でも、私はあの明るい光を、夢のような
時間を絶対に忘れないだろう

優良賞

わたしの家

結城南中学校 三年 会沢 香苗

わたしの家は代々続くぶどう農家
曾祖父がはじめてから七十年になる
初めてやった時は巨峰だけ
最初は土づくりからのスタートだった
収穫時期になっても大変なことはかり
お客さんはまったくといっていいほど来ない
お客さんが来ないからぶどうがダメになる
けど曾祖父と曾祖母は必死に耐え
色々と試行錯誤し客足を伸ばした
祖父祖母の代となりもっと客足が伸びた
このころから欧州系といわれるぶどうの
生産も始めた
シャインマスカットを始めピオーネなど
そして父も一緒に農業をやるようになり
種類がたくさんになった
今となってはわたしの家では二十種類ぐらいの
ぶどうを生産している
聞いたことのないぶどうもある
毎年天候に左右されてしまう仕事
自然のことなのでなにも言えない
それでも家族のみんなは美味しく育つこと
だけを願う
ここまで大きくきてくれた
曾祖父、曾祖母、祖父、祖母、両親には感謝
そして頑張ってるみんなにこれからも
体を大切に暑さに負けないでほしい

優良賞

雷雨

結城南中学校 三年 阿部 聖子

彼は呼んでいる
バリバリバリゴロゴロ
酷暑にやつはくる。
もう何回目だろうか
屋外にまで響く音 鼓膜が破れる程
強い叫びと稲光
彼だけでなくあの子も呼んでいる
私に呼びかけているよう
腹一杯になってもあなたは呼んでいる
ドドドン ドカン ゴゴゴ
何かを放つような叫ぶ音
地響きが鳴り響く
雨がザーザーソーゾードシャツ
激しい雨と雷音
また彼が呼んでいる
苦しいのか さみしいのか
助けがほしいのか 怒っているのか
彼は何度も私を呼んでいる
私は何もできない
誰だか知らない
ザーザー ゴロゴロ ドドド ドカン
雨音と雷音が重なる
いつまで続くのだろう 私はながめるだけ
あたりは真暗 怒りを上げるような声
ジグザグと明るい光がとき放つ
一瞬あたりが明るくなる きれいだな
さっきまで暑かったのに 今はうるさい
彼は鳴きやんだ

青春色のページ

結城第二高等学校 一年 上里 瑠璃

空を見上げる

時にそれは晴天のように

時にそれは月時雨のように

それは時に濃いめの甘すぎるフロアのよう

甘酸っぱいシモネードのよう

ほろ苦い微炭酸の思い出のよう

そんな夢のよう

物語のように上手くはいかないけれど

めくっては踏みとどまってしまっけねど

この思いを物語で終わらせたくはないから

それはもう二度と戻せない本のページのよう

そんな青春のページを私は生きている

—新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

【目的】 結城市出身の詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

【募集作品】 自由題の未発表詩

【応募資格】 結城市在住、在学の小・中・高校生

【選考】 選考委員長 新川和江（第1回～第10回）
武子和幸（第11回～）
（一社）日本詩人クラブ元会長
茨城文芸協会会長
選考委員 関 和代・山中 和江（センダンの木の集い）

【経過】

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）
●募集作品：「^{わたくし}私 が大人になったら」・「^{わたくし}私 のふるさと」のいずれかを題材とする
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生
●最優秀賞：「わたしのふるさと」
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校 2 年）

- 平成 24 年度 (2012) 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「日記詩」 海老澤 朋代 (結城南中学校 1 年)
- 平成 24 年度 (2012) 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度 (2013) 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈 (結城東中学校 2 年)
- 平成 26 年度 (2014) 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂 (山川小学校 2 年)
- 平成 27 年度 (2015) 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依 (城南小学校 3 年)
- 平成 28 年度 (2016) 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥 (結城小学校 6 年)
- 平成 29 年度 (2017) 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太 (城西小学校 5 年)
- 平成 29 年度 (2017) 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」10 周年記念誌発行
- 平成 30 年度 (2018) 第 11 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「あっ来た。ヤモリ」 永井 心海 (山川小学校 2 年)
- 令和 元 年度 (2019) 第 12 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「おばあちゃん家」 湯本 有紗 (結城南中学校 2 年)
- 令和 2 年度 (2020) 第 13 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「いいかおり」 坂本 七海 (結城第二高等学校 1 年)
- 令和 3 年度 (2021) 第 14 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「おばあちゃんの庭」 登坂 悠生 (結城西小学校 6 年)
- 令和 4 年度 (2022) 第 15 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「ぼくとウクライナの一日」 坂入 巧真 (絹川小学校 4 年)
- 令和 5 年度 (2023) 第 16 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「天国に行ったひいばあちゃん」 中山 真希 (江川南小学校 6 年)

—新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

—結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの^{まち}市
むらさきの筑波のみねから
太陽ののぼる^{まち}市です
鬼怒川の流れのほとり
千年の昔も今も
娘らがはた織る音の
高らかにひびく市です
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの^{まち}市
旅びとも歴史をたずねて
おとずれる城下町です
いにしへの文化の上に
あたらしい未来をひらく
ひとびとが心寄せ合い
すこやかに暮す市です
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんにちは結城 わたしたちの^{まち}市
はつ夏はあの道この道
桐の花におう市です
桑の実にくちびる染めて
幼い日あそんだ友が
祭りには胸はずませて
遠くから帰る市です
なつかしい灯ともすふるさと結城

どこかで

新川和江

コップのばらばらが ひらきまゐした

ちよんごごう

世界のどこかで

ふふふ と竹ちうたかうです

まこれいなまが かかりまゐした

ちよんごごう

世界のどこかで

ふふふ うたを うたうたかうです

小鳥がぼっととびまゐまゐした

ゆれている枝

世界のどこかで

ふふふが いまなり わけあしなうたかうです

花の名

新川和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつじー

花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚^{おぼ}えたちいさな妹が

やわらかな鉛筆^{えんぴつ}で

一字書いては

うれしげににっこりするよじに

わたしは発音^{はつおん}するのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして さくら・・・

